

(資料)

## REFRANERO ESPAÑOL (42) スペインの諺辞典

Bernardo Villasanaz\*(ed.)

新 井 藍 子\*\*

**1519. Si de ésta escapo y no muero, nunca más bodas al cielo.**

もしここから逃げられて 死なないなら  
もう決して天国での結婚式には 行かない

- とても危険な状況に落ち入って、そこから抜け出すのが非常に難しい者、或は、辛い目に会った後で後悔した者などが、これからはもっと慎重にならなければならぬと堅い決意をすることをいう。(スバルビィ)
- コレアスによると、この諺は、次のおとぎ話からきていると言う；“雌狐が鷲に天国で行われる結婚式に連れて行ってくれと頼んだ。そこで鷲が自分の翼の下に雌狐を抱えて空に舞い上がった、そして天国の近くにきた所で雌狐を下に落とす。雌狐は体中をさんざん痛めつけられて、こんなことを鷲に頼んだことをいたく後悔した” (コレアス諺集)
- 異表現には“Si Dios de ésta me escapa, nunca me cubrirá tal capa, もしここから神が逃がしてくれるなら、決してもうこのマントをかぶらないだろう” (バロス諺集)、“Si de ésta escapo, vida para cien años. もしここから逃げられたら、100年生きるだろう”、“Si de ésta escapo y no me muero, no quiero más bodas al cielo.

\* Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.

\*\* Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

もしここから逃げられて、死なないなら、天国での結婚式にはもう行きたくない”  
(コレアス諺集)，“Si de ésta escapo y no muero, nunca más bodas al cielo, o ni en  
el cielo. 標題と同訳” (スバルビィ諺辞典) などがある。

**1520. Si Dios no me quiere, el diablo me ruega.**

もし神がわたしを好きでないなら  
悪魔がわたしに願う

- コレアスによると、“表面的には、とんでもない格言に聞こえるが、真意は“Donde una puerta se cierra, otra se abre. 捨てる神あれば、助ける神あり” (一方で見捨てられ相手にされなくても、他方では助けてくれる人もでてくる一筆者の諺辞典、諺448を参照のこと)と同じである。標題の諺は、たいしたことのない者が(誰でもいいから)願わせたいと思っているのを軽蔑して皮肉っている。”
- 類義の諺には“Dios aprieta, pero no ahoga. 神はしめつけはするが、絞めはしない”がある。

**1521. Si el ciego guía al ciego, ambos van en peligro de caer en el hoyo.**

もし盲人が盲人の手を引くなら  
二人とも 穴に落ちる怖れがある

- 文字通りの意味の他に、無知な者が、商売のかけ引きなどで、同じように無知な者に忠告されたり、指導されたりしたなら、結果は火を見るより明らかで惨憺たるものになる。(スバルビィ)
- このよく知られている言葉は、イエス様の“人を裁くな”の中の次のような御言葉からきている；“Jesús les puso esta comparación : <¿Acaso puede un ciego servir de guía a otro ciego? ¿No caerán los dos en algún hoyo? ...イエスはまた、たとえを話された。<盲人が盲人の道案内をすることができようか。二人とも穴に落ち込みはしないか。...” (ルカによる福音書、6-39-40)
- 次の異表現“Si un ciego guía a otro ciego, ambos dan en el hoyo, o ambos caen en el abismo. もし盲人が盲人の手を引くなら、二人とも穴に落ちる”がスバルビィ諺辞典に収載されている。

- 類義の諺が、次のように“セレスティーナ、第1幕”の中に見い出される；ここでは恋に盲目となっている主人のカリストが、その恋のとり持ちをやり手婆のセレスティーナに頼んでいるのを嘆いて奉公人が言う，“Perdido es quien tras perdido anda. ¡Oh Calisto desafortunado, abatido, ciego! ...破滅のあとを追っていく者は破滅するかな、だ。おお、不幸なカリストさま、散々やられて盲目になっていなさる！”  
(魔女セレスティーナ、大島正訳)
- 例題：ドン・キホーテ第二部13章、それぞれの騎士に仕えている二人の従士の会話で、サンチョは、自分の主人であるドン・キホーテからどんなにばかばかしいことをされても、わるきというものが全然ない、純粋な心を持った主人を捨てる気にはならないという、そこでもう一人の従士が、諺を口にする，“—Con todo eso, hermano y señor —dijo el del Bosque—, si el ciego guía al ciego, ambos van en peligro de caer en el hoyo. <そりゃそうだろうがね、きょうだい>と、森の従士。<めくらがめくらの手引きをすれば、ふたりとも穴へおちる危険をおかすんですぜ。”(続編一、永田寛定訳)
- 人は近くにいる人によってよくも悪くもなるものである。両親、教師、友人などいろいろな人から感化を受けて立派になったり、墮落していく、まさに“水は方円の器に随う”、“朱に交われれば赤くなる”、“善悪は友による”などの諺がそう教えてくれる。

**1522. Si el cielo se cae, cogernos ha debajo.**

もし天が落ちたら 下にふりかかるにちがいない

- 恐れていることを並べて物事に言い訳と困難な点ばかりを捜そうとする者をいう。  
(コレアス)
- コレアス諺集には、同義で次の異表現が見られる；“Si el cielo se cae, quebrarse han las ollas. もし天が落ちたら、鍋が割れるにちがいない”，“Si el cielo se cayese, paralle las manos. もし天が落ちたら、両手で止めるだろう”，“Si el cielo se hundiese, cogeríanos debajo. 標題と同訳”，“Si el cielo se cae, o se cayese. もし天が落ちたら...” など。
- 類義の諺には、“Quien teme la muerte no goza la vida. 死を恐れる者は、人生を楽しまない”(何かをしようという時に、支障になるようなことを捜しては言い訳し、結局は始めない—筆者の諺辞典、諺1471を参照のこと)がある。

- コレアスの解説を読む前は、筆者は“杞憂”と同じではないかと思った。中国の杞の国の人が、天が崩れ落ちてくるのではないかと心配し、夜も眠れず食事も喉を通らなかったという故事によるもので、この場合は、“無用の心配、取り越し苦労”を意味する。(故事ことわざ活用辞典) スペインの“Si el cielo se cae, o se cayese. もし天が落ちたら...”の表現はぴったりと“無用の心配”を言い表わしている。

**1523. Si el principio se yerra, no puede seguirse fin buena.**

もし始めに間違うと 終わりはよくない

- 何ごとも始めが肝要であるということ。
- 異表現には“A mal principio no hay buen fin. 始め悪ければ、後も悪い”がある。類義の諺には“Buen principio, la mitad es hecha. 良いでだしは、半ば完成したようなもの”(最初の第一歩が、いちばん難しく骨が折れる—筆者の諺辞典、諺 167 を参照)、“Con poco viento cae en el suelo torre sin cimiento. 土台のしっかりしていない塔は、少しの風でも倒れる”(何事であれ基盤がしっかりしていないと、少々支障ですぐに失敗する—同諺辞典、諺 289 を参照)などがある。反義の“Corrida de caballo y parada de borrico. 始めは駿馬の如く、後は驢馬の如し”(日本の諺く始めよし後わるし>と同じ、同諺辞典、諺 305 を参照)もある。
- 例題：セレスティーナ第3幕、恋のとりもちにメリベアの屋敷に行くというセレスティーナに向かい、軽はずみに動くと元も子もなくすと、カリストの奉公人が諺を口にする、“Madre, mira bien lo que haces, porque cuando el principio se yerra, no puede seguirse buen fin. おっかあ、お前さんのやることをよく考えてごらん。はじめに誤ると終わりはよくないからね。”(魔女セレスティナ、大島正訳)
- “始めが大事”、“始めに二度なし”というように、最初にとった態度、方法が後までの物事のいき方を決定するからである。最後まで見通してプランを十分に練り上げないと、望む結果は得られないということ。

**1524. Siempre quiebra la sogá por lo más delgado.**

いつも縄は いちばん細い所が 切れる

- いつでも一番弱いものが損をする。
- コレアスによると、よく使われるのが“soga—縄”を入れない言い方“Siempre

quiebra por lo más delgado. いつでも一番細い所が切れる” だそうである。

- スバルビィ諺辞典には、異表現 “Siempre se rompe, o quiebra la sogá, o la cuerda, por lo más delgado. 同訳” (いつでも物事の悪い結果を償うのは力のない弱いものである—スバルビィ) がある, また, コバルビィアス (宝典) にも “La sogá rompe por lo más delgado. 縄はいちばん細い所が切れる” が収載されている。筆者の諺辞典, 諺 1385 でもすでに異表現 “Quiebra la sogá siempre por lo más delgado. 縄は, いつもいちばん細い所が切れる” がでてきたので参照して下さい。
- 類義の諺には, “Si da el cántaro en la piedra, mal para el cántaro; si da la piedra en el cántaro, mal para el cántaro. もし水瓶が, 石に当たれば, 災難は水瓶にいくし, 石が水瓶に当たっても, 災難は水瓶にいく” (筆者の諺辞典, 諺 1518 を参照) がある。
- 例題: セレスティーナ第4幕, カリストの恋のとりもちとしてメリベアの前に現れた厚顔無恥なセレスティーナは, メリベアを怒らせ, ぬけぬけとこう言う, “...pues no tengo otra culpa, sino ser mensajera del culpado. No quiebre la sogá por lo más delgado. No semejes la teleraña, que no muestra su fuerza sino contra los flacos animales. ところで, あの罪人カリストさまの使いという以外に, わたくしはなんの咎もありませぬ。縄が一番弱いところで切れないように願いたいものです。お姫さま, 弱いものにしか, 力を示さない蜘蛛のように, なって下さいますな。” (魔女セレスティナ, 大島正訳)

### 1525. Si la lengua erró, el corazón no.

口は口 心は心

- 言ったことに悪意はなかった。(コレアス) 善意な気持ちから間違えた人をいう。(バロス)
- “思う事は口に出る” とか “言葉は心の使い” の反義で, 心に思っていなかった事が, つい口から出てしまったということ。また, 善意から話したことで相手によってはまるっきり反対の意味にとられることもある。旧約聖書では何度でも舌で過ちを犯すなどわれわれに警告してくれる; “Ten cuidado de no pecar con la lengua, para no caer en poder de tu enemigo. 口を滑らせないように注意せよ。待ち構えている者の餌食になるな。” (シラ書, 28-26) と。言葉尻りをとらえられないように気をつ

けないといけない。

**1526. Si la locura fuera dolores, en cada casa darían voces.**

狂気が痛みなら どの家からも  
うめき声が 聞こえるだろう

- 誰でも軽卒な行動をするものである。(スバルビィ)
- 異表現がスバルビィ諺辞典にこうある；“Si la locura fuera Dolores, en cada casa habría voces. 同訳”
- 例題：セレスティーナ第8幕，カリストの奉公人の一人が，愛することが狂気の沙汰なら，自分はどうなのだろうと，諺を口にする，“...y yo soy loco y sin seso? Pués si la locura fuese Dolores, en cada casa habría voces. 俺は間違いで，脳足りんなのかな？ところで狂気が苦痛であるならば，どの家にだって間違いのわめき声が聞こえるだろうよ。”(魔女セレスティナ，大島正訳)
- 確かに恋というものは，人から理性を失わせ，狂気にまで走らせる力がある。そういう恋を，“恋は思案の外”，“色の道は分別外”，“恋は曲者”，“恋は闇”などと，いろいろな言い方で呼び，思慮分別の及ぶようなものではないと言っている。回りの者から諭され，邪魔されればされるほど熱く燃え上がるのが恋である。標題のスペインの諺は，恋が痛みならこの家からも苦痛の叫び声が聞こえてくるだろう，人が狂おしく愛するのはちっとも珍しいことではなく，当たり前なのだと言っている。情熱の国，スペインならではの諺である。

**1527. Si no eres venturoso, sé porfioso ; serás venturoso.**

運がよくないなら 粘り強くなれ  
そうすれば 運がよくなるだろう

- 物事に根気よく辛抱強く取り組みれば，必ずその努力は報われ大きな成果を得られるであろう。
- 類義の諺には，“Continua gotera, horada la piedra. 絶えまぬしずくは，石をもうがが”（筆者の諺辞典，諺 297 を参照），“Dando la gotera, hace señal en la piedra. 水したたりて，石うがが”（同諺辞典，諺 372 を参照），“Gota a gota, la mar se agota. 一滴一滴，海は尽きる”（同諺辞典，諺 619 を参照），“Un grano no hace

granero, pero ayuda al compañero. 塵も積もれば山となる”、“La perseverancia toda cosa alcanza. 根気があれば、全てを達成できる” (同諺辞典, 諺 1306 を参照), “Pobre porfiado saca mendrugo. 粘って粘って, パンくずもらう” (同諺辞典, 諺 1326 を参照) など, 多数ある。

- これらの諺類は, 何事でも目的を達成するためには, 努力, 根気のよさ, 辛抱強さ, 忍耐が大事であるとおしえている。安易な気持ちでは成果を上げられないということ。“石の上にも三年”, “牛の歩みも千里” (歩みは遅くても, たゆまず続けることが大事である) などの諺は, 途中であきらめずに最後まで続けることの大切さを謳う。また, 標題の諺は, 自分は運が悪いと思っている者は, 根気よくやり抜くこと, ねばり強くすることで幸運をひきよせることができると鼓舞している。成功の秘訣はこちらの “運根鈍” と同様である。

**1528. Si no errase el cuerdo, reventaría el necio.**

賢者が間違うことがなければ  
愚者は破裂してしまうだろう

- 思慮分別に富んだ賢い人が間違いをおかしたのを, 愚かな人がうれしがる時にいう。(バロス)
- 異表現には “Si el cuerdo no errase, el necio reventaría. 同訳” がある。
- この愚者については, コバルビアス (宝典) もセネカ (スペイン生まれのローマの哲学者) を引用してこういう; “<Más vale ser pobre que necio. 愚者より貧乏人のほうがまし>, 何故なら, 貧乏な人は金が必要なだけだが, 愚者は道理が必要なのだから。”
- 旧約聖書では, 愚者に欠けている, 知恵, 分別, 慎重さ, 熟慮等をあらゆる箇所で見出している; “La sabiduría comienza por honrar al Señor, conocer al Santísimo es tener inteligencia. 主を畏れることは知恵の初め。聖なる方を知ることは分別の初め。” (箴言 9-10-11) “El inteligente no hace alarde de su saber, pero el necio hace gala de su estupidez. 思慮深い人は知識を隠す。愚かな心はその無知を言いふらす。” (箴言 12-23-24), “...el prudente se fija por dónde anda. El sabio teme al mal y se aparta de él, pero al necio nada parece importarle. 熟慮ある人は行く道を見分けようとする。知恵ある人は恐れによって悪を避け, 愚か者は高慢で自信

をもつ。”(箴言 14-15-17)

**1529. Si no tienes dinero en la bolsa, ten miel en la boca.**

もし財布に金がなければ 口には蜜を持って

- せめて人と接する時は、愛想よく、親切にせよ。(バロス)
- 何故なら、“La buena cara es carta de recomendación. 感じのいい顔は、すぐれた推薦状”(筆者の諺辞典、諺 151 を参照のこと)、“Con el sombrero en la mano se conquista al mundo. 片手に帽子を持って、世間を征服”、“Buena gorra y buena boca, hacen más que buena bolsa. 品のいい帽子と言葉は、ふくらんでいる財布に勝る”、“Las buenas palabras untan; las malas, punzan. やさしい言葉は人を癒し、意地悪な言葉は人を刺す”(やさしい振る舞いは、人をひきつけ、その反対に意地悪な振る舞いは人をはねつける—筆者の諺辞典、諺 160 を参照) からである。
- まさに、“箴言(旧約聖書)”では、標題の諺と同じような表現でやさしい言葉をわれわれに求めるのである；“El que piensa sabiamente, se sabe expresar, ...知恵ある心は口の言葉を成功させ、...Las palabras dulces son un panal de miel; endulzan el ánimo y dan nuevas fuerzas. 親切な言葉は蜜の滴り。魂に甘く、骨を癒す。”(16-24-25)
- 金がなくても人の好意を得ることが出来るのは、優しい、親切な言葉、礼儀正しい振る舞いであるということ。

**1530. Sin pan y vino, no hay amor fino.**

パンとワインがなければ 甘い愛もない

- 物が欠乏しているところで、愛情を持ち続けるのは難しい。(バロス)
- 何故なら、“Donde no hay harina, todo es mohina. パンがないところでは、誰もが不機嫌”(生活の心配があると、不和が絶えず誰もがいらいらしている—筆者の諺辞典、諺 444 を参照せよ) だから。類義の諺には“Los duelos con pan son menos. 苦労もパンがあれば、たいしたことない”、“Donde no hay ganancia, cerca está pérdida. もうけがないところでは、損失は間近”がある。この“pan y vino—パンとワイン”は、生活には欠かせない最低限必要なものの象徴である。反義の諺には“Contigo, pan y cebolla. あなたとなら、たとえパンと玉ネギだけでも”(好き

なあなたとならどんな貧乏暮らしもいとわない、一緒になりたいということ—筆者の諺辞典、諺 296 を参照) がある。また、こういう諺もある、“Con pan y vino se anda el camino. 旅の道連れは、パンとぶどう酒”(しっかりと生きていくためには、しっかりと食べる必要がある—同諺辞典、諺 288 を参照)

**1531. Si os duele la cabeza, untaos las rodillas.**

もし頭が痛むなら 膝に膏薬塗れ

- 今話題にしている事柄と、それを中断させた事柄、或は返事したこととの間には何の関係もないことを言う。(スバルビィ)
- 例題：ドン・キホーテ第二部 67 章、ドゥルシネーアの幻術を解くためには、サンチョの尻を答打たねばならぬということになっていたが、ここでもドン・キホーテがサンチョにそれを思いださせる、それに対しサンチョが諺を交えてこう返事する、“... si va a decir la verdad, yo no me puedo persuadir que los azotes de mis posaderas tengan que ver con los desencantos de los encantados, que es como si dijésemos: <Si os duele la cabeza, untaos las rodillas>. ...<ふんとを言えば、わしのけつ叩くのど幻術解きとは関係があるたあどうにも納得がいがねえだ。頭痛がして、膝頭に膏薬塗って言うようなもんだ。...” (続編三、高橋正武訳)

**1532. Si quieres aprender a orar, entra en la mar.**

もしお祈りのしかたを 学びたいなら  
海へ行け

- 危険な目に遭うと、神に祈らずにはいられないから。
- 航海は危険であるという諺が他にもある、“La mar al más amigo pronto le pone en olvido. 海は、すぐに親友を忘れさせてくれる”(危険な目に遭うと、他人のことなど構ってられない、自分が助かることしか考えないから—筆者の諺辞典、諺 824 を参照)

**1533. Si quieres buen consejo, pídele al hombre viejo.**

もし良い忠告が欲しいなら 年寄りに頼め

- 年寄りには長い人生経験があるし、欲望からも解放されているので、人生を達観して

見ることができる。(パロス)

- 同義の諺には“Del viejo, el consejo. 年寄りの忠告”がある、年長者が長年積んだ経験からでてきた知恵とか忠告は尊重に値するという意味。
- 中国の故事からきた“老馬の智”（春秋時代、遠征の帰途に道に迷ったので老馬を放ち、その馬に導かれて道を見いだしたという—故事ことわざ活用辞典），“老いたる馬は道を忘れず”，“年寄りの言う事と牛の鞭は外れない”，“亀の甲より年の劫”，“老犬虚に吠えず”などの諺は、いずれも多くの経験を積んだ年寄りの意見とか忠告は、的を射ていて間違いがないという意味。
- あらゆる事柄をわれわれに教えてくれるのが聖書である、格言の多くは聖書からきている；“No desprecies las tradiciones de los ancianos, las cuales ellos oyeron de sus padres. Porque de ellos aprenderás a ser sensato y a responder bien cuando haga falta. 老人たちの話を聞き逃すな。彼らも、その先祖たちから学んだのだ。そうすれば、そこから知識を学び、必要なときに答えることができる。(旧約聖書、シラ書8-9-10)

#### 1534. Si quieres enfermar, cena mucho y vete a acostar.

もし病気になりたいなら 夕食たくさん食べて  
床につけ

- 夜寝る前にたくさん食べるのが体に一番悪い。
- 異表現が次のようにコレアス諺集に見られる，“Si quieres enfermar, cena mucho y vete a acostar, o cena y vete a acostar. 同訳”注：ここで使われている“costar”は、acostar のことで“寝る、床につく”—筆者
- 類義の諺には，“Cena poco y come más, duerme en alto y vivirás. 夕食は少し、昼食は多めに、高いベッドで眠れば長生きするだろう”（宝典に収載、筆者の諺辞典、諺230を参照），“Cena poco, y come más y bebe más. 夕食は少し、昼食は多めに、水はたくさん飲め”，“De grandes cenas están las sepulturas llenas. たくさんの夕食で、墓は満員”，“Cenas, soles y Madalenas, tienen las sepulturas llenas. 夕食、日光浴、女が墓を満員にする”（Madalenas—罪深い女を意味する），“Cenas, soles y penas matan al hombre. 夕食、日光浴、心配事が人を殺す”，“Si quieres ver a tu marido enterrado, dale a cenar carnero asado. もしあなたの夫の埋葬を

見たいなら、羊の焼き肉を夕食にだしなさい”（重くて消化に悪い—パロス）など、これら一連の諺の全てに多めの夕食は体に良くないと言っている。健康に関して、コレアス諺集に“Si quieres enfermar, lávate la cabeza y vete a echar. もし病気になるたいなら、頭を洗って床につけ”，“Si quieres estar bueno, mea a menudo como hace el perro. もし健康でいたいなら、犬がするようにたびたび小便しなさい”などの諺がある。

**1535. Si quieres hacer buen testamento, hazle estando bueno.**

もし良い遺言状を作りたいなら  
健康なときに作れ

- このように重要な事柄を取り扱う時は、急いではならない。特に恐怖心を抱いている病人本人がしなくてはならない時は尚更である。（パロス）
- 肉体的、精神的に正常な判断ができる健康な時に作成せよということ。健康なときは、いつか死ぬなどと思いもしないので、ためになる諺である。

**1536. Si quieres holgura, sufre amargura.**

苦あれば 楽あり

- 安泰な地位を獲得したいなら、苦勞して働かなければならない。（パロス）
- 直訳は“もし楽したいなら、苦勞せよ”で、“若い時の苦勞は買うてもせよ”と同じで、自分から求めてでも、若い時にする苦勞は、貴重な経験となり将来必ず役に立つということ。
- 逆に言えば“楽あれば苦あり”で、スペインの諺では“La mocedad holgada trae la vejez trabajada. 若い時に怠けていたら、年とってから苦勞する”（筆者の諺辞典、諺 946 を参照のこと），“Mocedad ociosa, vejez trabajosa. 若い時の楽は、年とってからからの苦”，“Mientras moza, bien pasar ; después de vieja, trotar. 毎日楽しく過ごす娘っ子は、年とったら、駆けずり回る”，“El que de joven no corre, de viejo trotar. 若い時に走らなかった者は、年とって速歩で駆ける”などと、いろいろな言い回しがある。
- 類義では、“Si quieres buena fama, no le dé el sol en la cama. もし良い評判を得たいなら、ベッドで日を浴びるな”（寝坊するな、怠け者に対していう—筆者），“Si

quieres tener buena fama, no te tome el sol en la cama. もし良い評判が欲しいなら、ベッドで日光浴するな”（早起きして働けということ）などがある。

- 若い時こそ苦勞をし、修養を積めという意味の諺には“若い時の力瘤”，“可愛い子には旅をさせよ”，“艱難に勝る教訓はない”などがある。

**1537. Si quieres saber lo que vale un duro,**

**gánalo o pídelo prestado.**

もし一錢の値打ちが知りたいなら 一錢稼ぐか

一錢借りるか どちらかだ

- 一錢稼ぐのにどんなに汗をかいて働かなければならないかが分かる、また、一錢という金を人から借りれば、それを返すのにどんなに苦勞をしなくてはならないかが分かる。（スバルビィ）

- 次の異表現 “Si quieres saber lo que vale un ducado, búscalo prestado. もし一錢の値打ちが知りたいなら、貸してくれる人を探せ” がコレアス諺集に、また、“Si quieres saber cuánto vale un real, mándale a buscar. もし一錢の値打ちが知りたいなら、それを探しにいけ”（本当にものの値打ちが分かるのは、それを他人にねだる時である、どんなに手に入れるのが難しいかが分かるであろう—バロス）がバロス諺集にそれぞれ収載されている。

注：筆者が“一錢（一円の百分の一）”と訳している金の単位は、まず標題の“un duro— 5 peseta 硬貨のこと、ペセタは、現ユーロの前のスペインの貨幣単位”，コレアス諺集の“un ducado—昔ヨーロッパ各国で用いられた金貨、スペインでは16世紀まで使われた”、バロス諺集の“un real—20世紀前半スペインで用いられたリアル白銅貨（1 peseta の4分の1）”

- わずかな金でも額に汗して働かなければ、手に入れることはできないということ。このように苦勞して稼いだ金は粗末にはできない。“一錢を笑う者は一錢に泣く”という諺がよくそのことを言い表している。たとえ少額でも、金銭は大事にしなければいけないと両国の諺は戒めている。

**1538. Si quieres saber quién eres, pregúntalo a tu vecino.**

もし君が誰か知りたいなら

隣人に聞いてみよ

- 誰も自分自身については知らない。われわれをどう思っているかという他の人たちの意見が全てである。(コレアス) われわれの生活をよく知っている身近な者が、他人がわれわれをどう評価しているかをおしえてくれる。(パロス)
- 自分が誰かを知りたいなら他の方法もある、つまり、“Dime con quién andas y te diré quién eres. 誰といっしょにいるかを言ってくれば、君が誰かを言ってあげよう (氏より育ち)” (人格をつくりあげるには、家柄よりも環境、教育のほうが大切である一筆者の諺辞典、諺 418 を参照)、“Dime con quién andas, diréte lo que hablas, o tus mañas. 誰といっしょにいるかを言ってくれば、君が何を話し、どんな癖があるかを言ってあげよう”、“Dime con quién paces, y decirte he qué haces. 誰といっしょに食べているかを言ってくれば、君が何をしているかを言ってあげよう”、“Dime con quién tratas, y diréte quién eres y qué costumbres tienes. 誰とつきあっているかを言ってくれば、君が誰で、どんな習慣があるかを言ってあげよう” などである。その他の類義の諺には、“Con quien paces, que no con quien naces. 氏より育ち” (筆者の諺辞典、諺 290 を参照)、“Muéstrame a tu mujer y decirte he qué marido tien. 妻を見れば、どんな夫かわかる” (夫婦は、長年つれ添ううちに、考え方、性格、趣味などがだんだん似てくるから一同諺辞典、諺 989 を参照) などがある。
- すでに述べてきたが、他者の目、則ち世間の目にわれわれがどう映るかはとても大事である、故に次のような諺がある；“La buena fama es como el ciprés, que si una vez quiebra no reverdece. 名声は杉と同じ、一度折れたら決してよみがえらない”、“La buena mujer no alcanza la buena fama solamente con ser buena, sino con parecerlo. 善良な女は、ただ善良であるだけでなく、善良に見えなければ、世間の評判は得られぬ”、“Cría buena fama y échate a dormir. 名声を得れば安閑としていられる”、“Buena fama, hurto encubre. 名声は、盗みを覆い隠す” (一度、名声を得れば、何か悪いことをしても隠すことができる一筆者の諺辞典、諺 152 を参照) など。

**1539. Si quieres vivir sano, anda una legua más por año.**

もし健康な生活したいなら 毎年歩く距離を増やせ

- 段々年を取っていくからといって運動するのを止めるべきではない。(バロス)
- 類義の諺には, “Si quieres vivir sano, hazte viejo temprano, y la ropa de invierno tráela en verano. もし健康な生活がしたいなら, 早く年寄りになりなさい, そして夏でも冬の衣を身につけるように”(色事を慎み, できるかぎり予防せよ—バロス), “Si quieres llegar a viejo, guarda el aceite en el pellejo. もし長生きしたかったらつやつやした肌を保ちなさい”, “Si quieres conservarte fresco y lozano, la ropa del invierno usa en verano. もしみずみずしく, はつらつとしていたいなら夏に冬の衣を身につけよ”(厚手の毛の衣は, 寒さからも, 暑さからも身を守ってくれるから。実際にカスティールヤ地方及び, その他のスペインの地域の農夫たちがそうしているし, 昔は夏の真っ盛りにマントを羽織っていたのである—バロス), “Si quieres vivir sano, la ropa de invierno no la quites en verano. もし健康な生活したいなら, 夏でも冬の衣を脱がないように”などがあり, コレアス諺集, バロス諺集にそれぞれ収載されている。

**1540. Si te dieran la vaquilla, acude con la soguilla.**

もし子牛をくれるなら 縄をもって駆けつけよ

- 誰かが何かを約束してくれるなら, その機会を逃すなということ。(バロス)
- 同義の諺が, 古い表記で“宝典”(コバルピェス)に見られる, “Quando te dieran la cochinilla, acude con la soguilla. 子豚をくれるなら, 縄をもって駆けつけよ”, その他の同義の諺には “Cuando te dieran el anillo, pon el dedillo. 指輪をくれるなら, すぐ指にはめよ”(筆者の諺辞典, 諺 347を参照), “Cuando te dieran un condado, agárrale. 一国をくれるなら, しっかりつかまえよ”(よい機会がおとずれたら, 恥も外聞もなく, それをつかめということ—スバルビィ諺辞典), “Cuando te dieran el buen dado, échale la mano. 良いさいころ(機会)をくれたら, すぐ手を伸ばせ”, “Cuando te dieran la cochinilla / la cabrilla / la vaquilla, acorre luego con la soguilla. 子豚/子山羊/子牛をくれるなら, すぐに縄をもって駆けつけよ”, “Cuando te dieran la oveja, toma la cuerda y vay por ella. ひつじをくれるなら,

縄をもって駆けつけよ”, “Al buen día, métele en casa. 吉日は家の中にとりこめ” (良い機会は逃さず, すぐに実行するのがいい—筆者の諺辞典, 諺 49 を参照), “Al buen día, ábrele la puerta, y para el malo te apareja. 吉日には門を開けよ, 凶日には準備せよ” などがある。われわれの人生経験から言えることは, よい機会というもの, そう滅多にあるものではない, だからこれらの一連のことわざは, そういう機会がおとずれた時には, 素早く行動せよとおしえてくれるのである。

- 例題: ドン・キホーテ第二部 50 章, 宮殿から小姓が素敵なおみやげを持ってサンチョの妻, テレーサのもとにやって来る, すっかり舞い上がったテレーサと娘のサンチーカ, その二人の間でかわされる会話がとても面白い。サンチョに影響されて, ここではテレーサが立て続けに諺を口にする, その一つが標題のそれである, “...; que todo es comenzar a ser venturosas ; y como yo he oído decir muchas veces a tu buen padre, que así como lo es tuyo lo es de los refranes, cuando te dieren la vaquilla, corre con la sogilla ; cuando te dieren un gobierno, cógele ; cuando te dieren un condado, agárrale, y cuando te hicieren tus, tus, con alguna buena dádiva, envásala. ...これはまだ何もかも, おらたちの仕合せの序の口よ。おら, おめえのおとうがよく言うのを聞いたのだが, おめえのやさしいおとうは, おめえをませたおとうは, ことわざ生むもうめえおとうだがね, ひとが仔牛をやろうと言え, 縄もって急げ, 領地くれるならもらっとけ, 一圀くれるならつかんで放すな。うめえ物なにか見せられて, お出でおいでと言われたら, 食らいついていきな...” (続編三, 高橋正武訳)

**1541. Si te vi, burléme; si no te vi, calléme.**

そんなこと知るもんか

- 馬鹿げたことや, 恥ずかしい行為を過去においてしておきながら, それを尋ねられると, 知らんぷりをする人をいう。(スバルビィ)
- 次の異表現 “Si me viste, reíme ; si no, escarneçíte. 同訳”、 “Si me viste, burléme ; si no me viste, calléme. 同訳”
- スペイン王立アカデミー辞書: “Si te he visto, o si te vi, no me acuerdo, ya no me acuerdo. そんなこと知るもんか, そんなこと覚えてないよ” は, 好意とか援助を受けたのに, そのお返しに冷淡な態度を見せる恩知らずな人を言う。

- 例題：セレスティーナ、第12幕、セレスティーナは、分け前は全部自分のものだと  
言い出す、もらった金の鎖もどこにあるか分からない、とセレスティーナ “...  
Entraron unos conocidos y familiares míos en aquella sazón aquí ; temo no la  
hayan llevado, diciendo : <Si te ví, burléme>, etc. ...その時、ここへ二、三人の  
知り合いの者と、親しい人が入ってきたのよ。ところがこっちはそういう人たちが  
<見つけたらこっちのものだよ>なんて言って持っていきやしないかと心配なのさね。  
...”（魔女セレスティナ、大島正訳）

**1542. Si tienes médico amigo, quítale la gorra y envíale en casa de tu enemigo.**

医者が友だちなら 帽子を脱がせて  
敵の家に送りどけよ

- たいてい医者というものは、人のためになるより、損害を与えるほうが多いから。  
（バロス）
- スバルビィ諺辞典には、異表現 “Si tienes médico amigo, quítale la gorra y envíalo a casa de tu enemigo. 同訳” が収載されている。スバルビィによると、  
“親しくしている医者というものは、多くの場合、遠慮からか、或は、特別な親愛の  
情によるのか、普通より看たてが甘くなり、病気が治らない場合が多いから”

**1543. Si tienes prisa, ve despacio.**

急がば回れ

- あわててすると失敗するから、急ぎの仕事は、かえって着実にいねいにせよと教えて  
ている。
- 日本の諺には、同義で比喻を用いたいろいろな言い方が次のようにある；“近道は遠  
道”，“走れば躓く”，“ゆっくり急げ”，“急いては事を仕損じる”，“回るは早道”，ま  
た、類義のことわざには“待てば海路の日和あり”，“果報は寝て待て”，“待てば甘露  
の日和あり”などがあり、あせらずにじっくり待っていれば、いつかは幸運が訪れて  
くるものであるとたとえている。

**1544. Sobre dinero no hay compañero.**

金銭に 友はいない

- 金銭に関しては、友達の間柄でも他人と同じで、そこに友情は存在しない。
- 異表現がスバルビィ諺辞典に次のように見られる；“Sobre dinero no hay compañero. Bien te quiero, bien te quiero, mas no te doy mi dinero. 金銭に友情はない、とてもあなたが好きだけど、わたしのお金は上げない”（礼儀正しく申し出は盛んにするのに、いざその機会が訪れると、困っている人のところに駆けつけようともしないで知らんぷりを装い、関わりを持たうとしないような人をいうスバルビィ）
- 類義の諺には“Más cerca están mis dientes que mis parientes. 自分の歯は、親類より近いところにある”（人は誰でもまず第一に自分自身のくらしを心配しなければならぬので、他人の世話はその後である—コバルビアス、宝典、詳しい説明は筆者の諺辞典、諺 834 を参照して下さい）、“Más quiero para mis dientes que no para mis parientes. 親類のためより自分の歯のためにもっと欲しい”（自分の身を養いたいということ、同諺 834 を参照）、“Ante mis dientes no hay parientes. 自分の歯の前には、親類はいない”（まず自分自身が食べていくことを考えなければならぬ）、“No hay más amigo que un duro. お金以上の友はいない”（人が金を大事に思う気持ちをいう—筆者の諺辞典、諺 1125 を参照）などがある。友情に関しては、“En el peligro se conoce al amigo. 危険にさらされた時に、真の友がわかる”（同諺辞典、諺 544 を参照）、“En gran peligro, mejor es el hermano que el amigo. 最大の危機には、友人より兄弟”などがある。これらの諺が示すように、金銭に関しては、親類も友人もいないと考えたほうがいい。
- 例題：セレスティーナ第 12 幕、自分たちの分け前をとるために今からセレスティーナの家へ行こうと、主人カリストの奉公人ふたりのうちの一人がこう言う、“... Vamos entrambos y, si en eso se pone, espantémosla de manera que pese. Que sobre dinero no hay amistad. じゃ二人で行こうぜ。もしもあいつが、お前の言うように、俺たちをばかにするようなまねを、しやがったら、後悔するように、おどかしてやろうぜ。銭かねに関しては、友だちもへったくれもないからな。”（魔女セレスティーナ、大島正訳）
- 日本の次の諺は、それを的確に言い表している、“親子の仲でも金銭は他人”（金銭に

関しては、親子の間柄でも水臭くなる、また、他人と同様にきちんとけじめをつけるのがいい—故事ことわざ活用辞典)、“金に親子はない”など。また、自分さえよければいいという利己的な人への軽蔑のことは“人は悪かれ我善かれ”がある。

**1545. Sobre Dios no hay señor, ni sobre la sal hay sabor.**

神のほかに主はいないし 塩のほかに味はない

- コバルビアス (宝典) によると、この“señor”という呼び名は、完全に神にのみ与えられるものである。それ故に、どんなに立派な君主でも、“señor”と呼ばれることを自ら放棄した。そのうちの一人がアウグストゥス帝 (ローマ皇帝) で、その呼称は自分のものではないとし、勅令により誰にも呼ばせなかった。
- それでは、“Señor—主”とは、どういうお方なのであろうか、旧約聖書の中では；  
“Dios, que vive eternamente, creó el universo ; sólo el Señor es intachable. 永遠に生きていらっしゃる方が、万物をことごとく造られた。No hay nadie fuera de él ; él puede dirigir el mundo con su mano, y todo obedece a su voluntad. ただ主おひとり、正しい方である。主は、その手のひらの中で世界を動かし、すべてのものは、そのみ旨に従う。Él es el rey del universo y tiene poder para separar lo sagrado de lo que no lo es. 主こそ、力をもってすべてを治める王であり、清いものと汚れたものを分けられる。” (シラ書 18-1-3) その主に対し、人間とは；“El Señor formó de tierra al hombre, y a la tierra lo hace volver. 主は、人間を土から造られ、再び、土に帰される。Le ha señalado un contado número de días, y le ha dado poder sobre todo lo que hay en la tierra. 主は、彼らに一定の寿命を与え、地上のものを治める権能を授けられた。Le dio autoridad semejante a la suya, ¡ lo hizo a su propia imagen! 主は、ご自分と同じような力を彼らに帯びさせ、御自分に似せて彼らを造られた。” (シラ書 17-1-4) “¿ Qué es el hombre?. ¿para qué sirve?, ¿ Qué es el bien o el mal que puede hacer? 人間とは何者か。その存在の意義は何か。その行う善、その行う悪とは何か。Si un hombre vive mucho, llegará a cien años ; pero comparados con la eternidad, son como una gota de agua en el mar o como un granito de arena. 人の寿命は、長くて百年。大海の中の一滴、砂の中の一粒のように、永遠という時に比べれば、この寿命はわずかなものにすぎない。” (シラ書 18-8-11)

- また、イエスは、こう弟子たちに言われた（新約聖書、ルカ福音書 16-13-）；  
“Ningún sirviente puede servir a dos señores (o amos) ; porque odiará a uno y  
querrá al otro, o será fiel a uno y despreciará al otro. No se puede servir a Dios  
y a las riquezas. どんな召使も二人の主人に仕えることはできない。一方を憎ん  
で他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがた  
は神と富とに仕えることはできない。”
- “神” に関して次のような諺もある；“Sólo Dios es el que no tiene necesidad. 神  
のみが欠乏しない”（自分ひとりで充分であると信じている傲慢な者を戒めている—  
パロス諺集）

**1546. Sobre mojado llueve y sobre seco a veces.**

濡れたところに雨が降り 乾いたところは時々

- 前にしたけんかの時に抱いた感情に再び突き動かされて、別の機会に新たにけんかを  
始めることをいう。“llueve—雨が降る”は、“llovía, llovió—雨が降った”に変える  
ことができる。（コレアス）すでに以前話したことがある事柄とか、口論した内容  
を再び取りあげてをたとえていう。（パロス）

**1547. Sobre un buen cimiento se puede levantar un buen edificio.**

しっかりした土台に しっかりした建物が立つ

- 何事であれ始めの基礎が大事であるということ。基礎さえしっかりしていれば、後の  
物事は順調に進めることができ、目標にまで到達できるし、成果をおさめることがで  
きる。
- 類義の諺には“Con poco viento cae en el suelo torre sin cimiento. 土台のしっか  
りしていない塔は、少しの風でも倒れる”（基礎のしっかりしていない商売とか取引  
きは、わずかな支障でもすぐに失敗する—筆者の諺辞典、諺 289 を参照のこと）
- 例題：ドン・キホーテ第二部 20 幕、現実主義のサンチョがいかにも言いそうなこと  
を諺を交えて言う；“Sobre un buen cimiento se puede levantar un buen edificio,  
y el mejor cimiento y zanja del mundo es el dinero. いい土台の上には、いい建  
物もたつわけだね、世界で一ばんの土台、一ばんのいしずえは金でさ”（続編一、永  
田寛定訳）

- たしかにサンチョが言っていることには一理ある。日本の諺の“先立つ物は金”が言うように、何をするにも、最初に必要なものは金である、商売も資金がなければできないし、教育にも金がかかる。しっかりした家庭を築くにも金がある、“夫婦喧嘩もないから起こる”という諺もあるぐらいである。また、標題の諺には“始めが大事”、“始めよければ終わりよし”という意味もある。



En la cultura española la Virgen del Pilar es la patrona de la Hispanidad venerada en la Basílica de Zaragoza (España). La tradición afirma que dicho pilar nunca ha variado su ubicación desde la visita de María al apóstol Santiago el Mayor. Representa una advocación mariana católica.